

「在宅医療」アンケート結果について

地域医療連携室 連携室長 佐々尾 航

「在宅医療」について、8月下旬から9月中旬にかけて、当院の内科でアンケートを行いましたので結果をご報告いたします。回答は270名にいただきました。ご協力いただいた患者様には感謝いたします。

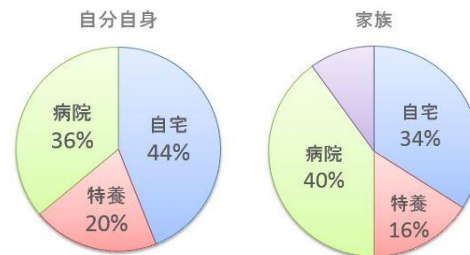
*「人生の最期の療養を望む場所」について

自分自身 : 「自宅」44%、「特養などの施設」20%、「病院」36%

家族 : 「自宅」34%、「特養などの施設」16%、「病院」40%

<考察>

「自宅」が減り、「病院」が増えます。つまり、「自分の最期は自宅がいいけれど、家族の最後は病院がよい」という傾向が言えます。「病院」と答えた方は、その理由として「安心感」を最優先にあげています。「家族の負担」がそれに続く回答でした。



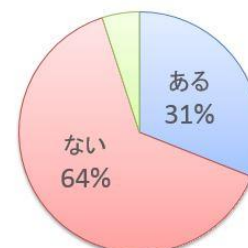
*「療養について家族で話をしたことがあるか」

ある:31% ない:64%

<考察>

なかなか現実にならないと話をしていない気持ちもわかりますが、私たちが現場で見ていると、もっと意思を示せるうちに話し合っておくことが重要だと感じます。話し合いの経験の有無によって、先ほどの「療養の場所」の回答に変化があり、話し合った事があると、自分も家族も「自宅」を選ぶ方が半数に増えます。話し合った事がないと、「病院」を選ぶ方が多くなり、とくに家族に対して「病院」で療養させたいと思う方が半数近くになります。療養について事前に話し合っ、家族の希望を聞いておくことは、自分らしい療養をさせてあげることにつながるのかもしれない。

療養について家族で話したことがあるか



*「介護の経験があるか」

ある:34%(うち仕事 16%・家族 84%) ない:63%

<考察>

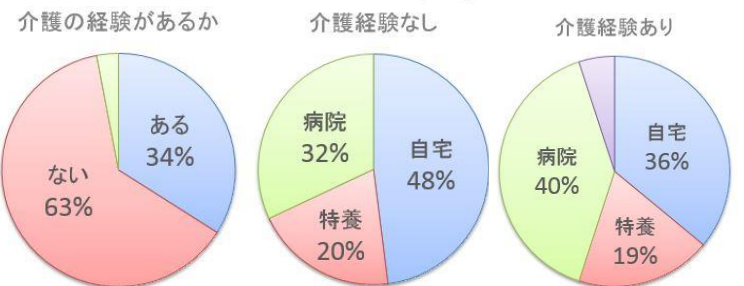
介護経験の有無は、自分自身の「療養を望む場所」に変化をもたらしました。

介護経験なし:「自宅」48%、「特養などの施設」20%、「病院」32%

介護経験あり:「自宅」36%、「特養などの施設」19%、「病院」40%

となりました。つまり、介護経験があると自分自身の療養先として「自宅」を選ぶ人が減り、「病院」を選ぶ人が増えます。おそらく、介護をされた経験によって、自分自身の療養では家族に同じような負担をさせたくないと感じるのでしょうか。対して家族に対しては、介護の有無で変化はありませんでした。

療養を望む場所



この結果は、全国で行われた同様の調査とほぼ傾向は変わりませんでした。これらの結果から読み取れる事として、「在宅医療」を普及させていくためには、「在宅でも安心感をあたえられるように」「家族の介護の負担を少しでも軽減できるように」考えていく事が重要なのだと思います。

当院でも、当院かかりつけ患者さんのレスパイト入院による介護負担軽減の取り組みもしておりますが、地域の介護・福祉サービスと連携をより緊密にしながら、どのように地域に在宅医療を根付かせる事ができるのか、知恵を出していかなければならないと感じました。

アンケートでは自由回答欄に、様々な賛否を寄せていただきました。熱い思いが伝わるものが多く、今後の参考にいたします。本当に感謝申し上げます。

包括ケア病棟について

理学療法士 唐立 将

今回は道立羽幌病院の地域包括ケア病棟についてリハビリの視点からお話させていただきます。

気が早いと思われるかもしれませんが、地域包括ケア病棟では入院時から退院後の生活を想定し、どんな動作や力が必要なのか考えながらリハビリテーションを行っています。

例えば、ベッドから起きたり椅子から立ったりしやすくするために体の柔軟性や筋力をつける練習、歩行など移動の練習、段差やまたぎ動作に必要なバランスの練習など、生活に必要な力をつけていくことを行っています。

そして退院後、安全に生活できるようベッドやポータブルトイレ、

段差解消など環境の整備が必要かどうかについてもケアマネージャーや家族の方とも話をします。

また、入院中は看護師・社会福祉士と共に病棟生活での援助方法や退院後に必要なケア・サービスなどについても毎週検討しています。

このように入院された方が退院後、この住み慣れた地域でより長く暮らしていくために、さまざまな職種が協力し、退院後の生活のことも考えたケア・治療を行っています。

もしリハビリの内容や自主練習、自宅の環境や退院してからのことなど、どうしたらいいか疑問に思うことがあれば遠慮なく当院リハビリテーション科までご相談ください。

臨床検査技師とは？

検査科 臨床検査技師 坂井 惇一

皆さん臨床検査技師という職業があることを知っていますか？知らない方も多いと思いますので臨床検査技師について紹介したいと思います。

臨床検査技師とは患者様の体の状態を知るために、様々な検査を実施する職業です。

検査は大きく分けると「検体検査」と「生理機能検査」の二つに分けることができます。検体検査では血液や尿などを調べることで病気の診断や早期発見などを行い、生理機能検査では心電図や心臓超音波検査などで心臓の病気の診断や早期発見、肺機能検査で肺の病気の診断や重症度の確認などを行います。

正確な検査情報を取得することで医師の診断や病気の経過観察、治療効果の判定、病気の早期発見などに貢献している縁の下の力持ちなんです。

防火避難訓練を行いました

庶務課 庶務係長 中住 光宏

9月29日に防火避難訓練を行いました。

今回の避難訓練は、2階からの出火を想定し、火災通報、初期消火活動、入院している患者様の避難を行いました。

寝たきりの患者様や自力で移動できない患者様と避難することを想定し、車椅子を使用したり、ベッドごと安全な場所に避難する訓練を行いました。

また、避難訓練後には、消防署の隊員の方に教わりながら、屋外での消火栓や消火器を使つての消火訓練を行いました。

火災を起こさないことはもちろんですが、起きてしまった場合にも迅速に対応できるよう、これからも訓練を行っていきます。



MRI とあったか下着、 使い捨てカイロ

放射線科 専門員 浅野目秀樹

寒いこの季節、遠赤外線効果(ヒートテックなど)のある、あったか下着を着ている方や、防寒対策の一環として、腰やお尻などに使い捨てカイロを貼っている方を多く見受けられるようになりました。

MRI 検査時は、発熱したり、人体に電流が流れたりする危険を避ける為に、普段から、身につけているものを極力外して頂いたり、洋服を脱いで頂いたりして、皆様にはご協力をお願いしております。

遠赤外線効果のある素材や使い捨てカイロの成分のごく一部に、強い磁場の中で発熱効果のある素材があります。

カイロでは熱さを感じるくらい発熱するものがあつたり、あったか下着でも、カイロほどではなくても、下着そのものの保温効果が加わり、長時間の検査では、サウナ状態に近いものになってしまう場合があります。

技師サイドでも、注意は払っていますが、中の肌着にカイロが貼ってあつたり、着ている下着があつたか下着の時は、予め脱いで頂くようご協力願えれば幸いです。

尚、X線で撮影を行うCTや一般撮影では、あったか下着は問題ありませんし、使い捨てカイロも、撮影する場所に重なっていなければ、全く問題ありませんから、外す必要はありません。



マスクの自販機を設置しました

自動受付機の横にマスクの自販機を設置しました。

夕方以降のお見舞いなど、売店が営業していない時間帯でもマスクを購入できるようになりました。

2枚 100円で販売しております。

これからの寒くて乾燥する時期の感染予防に役立ててください。



～ブログ 続いています～

羽幌病院のことをより知って頂くため、病院や羽幌町の情報を提供するブログを作成しています。是非、ご閲覧ください。

北海道立羽幌病院のブログ
<http://blog.livedoor.jp/haborohp/>

患者－医療者パートナーシップ

～当院では患者－医療者パートナーシップ宣言の強化に努めます～

- 医療の主役は患者さまです。● 私たち医療者は、患者様の病気の診断・検査・治療計画について、十分な説明をします。
- その上で納得して医療を受けられるように支援いたします ● わからないことは何でも、お気軽に相談して下さい。